



なるほど！医療講座

著：串間市民病院 院長
黒木 和男

C型慢性肝炎の最新の治療

C型慢性肝炎の最新の治療
現在、世界人口の約3%、約1億3000万人がHCV（C型肝炎ウイルス）に感染しているとされています。日本では約200万人のHCV感染者がいるということです。2008年よりウイルス性肝炎（B型慢性肝炎、C型慢性肝炎）の治療を受ける人に対して公的助成が始まりました。収入によって助成額が異なりますが、1カ月の負担がほとんどの人で1万円、一部の人では2万円で済むようになりました。串間市民病院にも串間市内だけではなく、日南市や志布志市からも大勢の患者さんが来られて治療されています。それでも最近来られた患者さんも、以前からC型慢性肝炎とわかっていて放置されていたということでした。そういった方がまだまだおられるようです。今回はC型慢性肝炎治療に対する最新の情報をお知らせします。

C型肝炎ウイルスは遺伝子型（ジェノタイプ）によって1型、2型に分けられます。1型が約70%、2型が30%です。ウイルスの種類とウイルス量によってインターフェロンの治療効果に差が出ます。1型でウイルス量の多いものは治療効果が悪いといわれています。C型慢性肝炎の治療にはインターフェロンが主に使われています。1992年2

月からC型肝炎に対するインターフェロン治療が始まりました。2004年からはペグインターフェロン+リビリン投与が始まりました。それまでのインターフェロンが1週間に3回投与するのに対してペグインターフェロンは週1回で済みます。副作用も軽くなっています。2008年4月から公的助成が始まったこともあり大勢の患者さんに投与しています。2型高ウイルス量の人には24週間投与で90%に効果がありますが、1型の高ウイルス量の人には72週間投与しても約50%しか効果が認められません。とくに中高年の女性には効果が低くなっています。女性の方は若いうちから治療をすることが必要です。

インターフェロン療法の効果を治療前に何とかして確かめようといういろいろなことが調べられています。ウイルス側の要因としてHCV遺伝子のNS5A領域内のISDRの変異が多ければ効果があるといわれており、コア蛋白70番、91番アミノ酸変異があると効果が期待できないといわれています。宿主側（ヒト）の要因として、19番染色体上のIL28B遺伝子多型が治療効果に影響していることがわかりました。メジャーホモ接合体（TT）であれば約80%に効果が期待でき、ヘテロ接合体（TG）あるいはマイナーホモ接合体（GG）

ペグインターフェロン+リビリンの治療効果に影響をおよぼす要因

ウイルス側の要因	
NS5A 領域内の ISDR の変異	変異が多ければききやすい
コア蛋白 70 番、90 番アミノ酸変異	変異があればききにくい
宿主側の要因	
IL28 B 遺伝子多型	
メジャーホモ接合体 (TT)	ききやすい
ヘテロ接合体 (TG)	ききにくい
マイナーホモ接合体 (GG)	ききにくい

GG) であれば約20%しか効果がないことがわかりました。効きにくい人にはすぐには治療せず、次に述べるプロテアーゼ阻害剤投与を考えるとよいと思われるかもしれません。

プロテアーゼ阻害剤
プロテアーゼ阻害剤という内服薬が新しい治療薬として期待されています。1型高ウイルス量のC型慢性肝炎に対してペグインターフェロン+リビリン+プロテアーゼ療法24週間投与で約20%著効率が上昇するといわれています。日本でもテラプレビルという薬剤が本年中には発売される予定です。これまで難治性といわれてきたC型慢性肝炎も制圧できる日が近いと思われるかもしれません。希望を持って治療をしていきましょう。

学校へ行こう

学年を越えて協力し合う生徒たちです。



実践力のある生徒を育てます

実践力の育成、地域との交流、小中学校の連携を柱に教育に取り組んでいます。

中学校に親しむ



オークランドデー

小学生が中学校に親しむ機会となる交流授業を設けたいという思いから平成22年度に始まったオークランドデー。名前の由来は椎の木台という中学校の地名から、椎を英訳したオークを使いました。この交流授業は月2回行われ、小学生は小中学校両方の先生から授業を受けます。専門の先生が授業に加わることで、よりきめ細やかな授業をすることができるのです。給食と清掃は小中学生と一緒に過ごし交流を深める、一番楽しい時間です。オークランドデー第一期生の子どもたちは4月

今回紹介するのは、北方中学校（中邑順一郎校長）。全校生徒49人、職員16人の中学校です。北方中学校では生徒の自主的な活動が盛んです。生徒たちは毎朝、校門前の道路での清掃とあいさつ活動を行っています。この活動は生徒会を中心に、役割の分担や順番の決定などを生徒たちが自ら考えて実践しています。

平成22年度からは3つの新たな活動を始めました。一つは表現力の育成を目標とした1分間スピーチです。この1分間スピーチは、前日までに原稿を作り先生が校正するという、先生と生徒が協力して作り上げたものです。校正を重ねることで、文章作成能力を高め、聞き手に伝える表現力を養っています。

2つ目は養護老人ホーム恵福寮での交流会です。これまでも、

生徒たちの清掃活動などの交流が行われていましたが、地域との交流をより大切にしようという思いから、全校生徒による交流会を実施しました。学年ごとに出し物を披露したほか、入所者の方々とおしゃべりタイムでは学校や地域の話題で盛り上がり、笑顔があふれる交流会となりました。

3つ目の活動はオークランドデーです。昨年の9月から始まったこの活動は、北方小学校と秋山小学校の2校の5、6年生を招き、中学校で授業を実施しています。

中邑校長は「生徒たちはみんな、素直で明るく、すばらしい表情をしています。この良い点を大事にしながら、自ら問題を解決していく、実践力のある人間に成長してほしいです」と話していました。